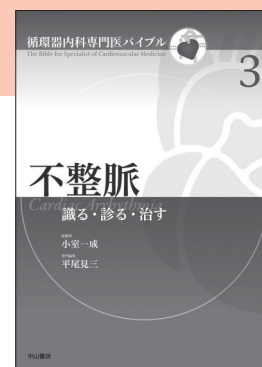


循環器内科専門医バイブル 3

不整脈

— 識る・診る・治す —

小室一成／総編集
平尾見三／専門編集



B5 判 376 頁 4 色刷
定価：本体 12,000 円＋税
2018 年 10 月 中山書店刊

評者 小川 聡 小川聡クリニック院長 慶應義塾大学名誉教授

今般、シリーズとして刊行された「循環器内科専門医バイブル」は、日本循環器学会の専門医ならびにこれから専門医を目指す若手医師に、代表的心疾患の治療指針を学んでもらうために企画されたものである。総編集にあたられた小室一成東京大学循環器内科教授は、現在日本循環器学会の代表理事を務められており、まさに学会を挙げて専門医の臨床能力の底上げを意図したものである。本書「不整脈」の専門編集者・平尾見三教授は日本不整脈・心電学会の前理事長であり、その平尾先生が第一線で活躍される不整脈専門医を厳選して執筆者に指名され、各執筆者も本書の趣旨を十分理解された上での執筆で、最先端の知識が集約され、いずれも力作である。

ただし不整脈の領域でも、特に治療法ならびにその適応に関する考え方は日進月歩であり、読者にはあくまでも「現時点での標準治療」が提示されているという捉え方をしたい。また、どの執筆者も、巻頭にリストアップされている不整脈関連の日本循環器学会ガイドラインに忠実に治療指針を記述されているが、中には評価が確立していない治療法について、個人的見解が述べられている部分もある。それは、アブレーション治療である。上室性頻拍症については、成功率は今や 99% とされ、安全性の観点からも第一選択の治療法として確立されている。一方、発作性心房細動へのアブレーション治療に関しては、2012 年版「カテーテルアブレーションの適応と手

技に関するガイドライン」では、薬物治療抵抗性の有症候性のケースがクラス 1 とされている（年間 50 例以上の心房細動アブレーションを実施している施設で行われる場合）。その背景には、未だ我が国における施設ごとの成功率・合併症発生率・長期的再発率の報告が少なく、「安全な根治術」と言える段階ではないことがある。現在学会が全例登録を進め、近い将来には再発率、合併症発生率が公表されるはずで、さらには施設ごとにその評価が出るまでは、患者にあたかも根治術であるかのような説明や、早期に実施すれば以後の薬物療法が不要になるかのような説明を行って、アブレーション治療に誘導することは避けたい。同ガイドラインではクラス IIa に、「薬物治療が有効であるがアブレーション治療を希望する場合」が挙げられており、近年この対象群への実施が増える傾向にあるのが気になる点である。循環器専門医に求められるのは、心房細動の有力な治療手段である薬物療法に習熟することに加えて、真にアブレーションでメリットを受ける患者の選別を日常診療の中で学ぶことである。現在 2012 年版ガイドラインの 5 年ごとの改訂作業が進行中と伺っている。今後の展開に是非眼を凝らしていただきたい。

本書を通して、不整脈の診断に精通し、薬物療法/非薬物療法の選択肢から最適な治療法を適用することで、不整脈で苦しむ患者を救うことの喜びを味える、そんな専門医が増えることを期待している。